

II-展-P175 妊娠糖尿病により巨大児を生じたと考えられる興味ある1症例

三重大学産科婦人科

菊川 東洋, 杉山 隆, 小塚 有紀, 前田 洋一,
高川 有香, 吉田 純, 日下 秀人, 豊田 長康

巨大児は妊娠糖尿病 (GDM) における重要な合併症の一つである。今回我々は、妊娠中期に子宮内胎児発育制限 (IUGR) を呈したが、妊娠 29 週以降に無治療となり、巨大児となった GDM の症例を経験したので報告する。

症例は 27 歳の 1 経産女性。前回妊娠時は児頭骨盤不均衡にて帝王切開術を受け、4454g の児を出産。今回は妊娠 15 週時に GDM を疑われ、管理目的で当科を紹介された。入院後、食事療法と強化インスリン療法により血糖調節し、17 週以降外来で管理した。妊娠 25 週まで児は IUGR を呈した。妊娠 29 週以降外来を受診せず、妊娠 37 週時に突然前医を受診した。38 週に帝王切開術を受け、4852g の女児を出産した。低血糖、黄疸を認め NICU で管理された。

本症例は胎児体重が妊娠 29 週以降約 9 週間で 3500g 増加し、高血糖が巨大児を引き起こしたものと推察された。血糖調節の重要性を改めて知らされた症例である。